

地元力で反撃編

役場のある町の中心部から車で20分以上、山道をひたすら上った標高400mの田んぼの中。(農)福の里がそんな場所に直売所をオープンして9年目を迎えた。

営業日は水・土・日祝のみだが、年間の売り上げは2500万円以上。しかもその半分は米や米の加工品で稼いでいるというから驚きだ。

直売所に30kgの米袋の山

「ちょうどイベントがあるから、取材するならその日がいいですよ」

(農)福の里の組合長市河憲良さん(66歳)にすめられた11月のある日、福の里の事務所兼直売所を訪ねた。イベント当日の朝とあって、オレンジ色のユニフォームを着た福の里のメンバーはみんな忙しそうだ。

市河さんの手が空くまでの間、先に直売所を覗いてみることにした。山積みの中、ホウレンソウ、ネギ、シュンギク……と新鮮野菜がズラリ。なんと山の中なのに鮮魚まである。

「町の道の駅から朝運んでもらうとるんです

集落営農のおいしいお米

縁故米と直売所で 72tは軽く売れます

山口県阿武町・農事組合法人福の里

文・写真=編集部



よ。帰りの車に福の里の加工品を載せて帰って、それを道の駅で売らなくていいアイデアなるほど、出荷の手間を省きたいアイデアだ。新鮮な魚は特に地元の人に人気のように、並べたそばからどんどん売れていった。

ほかにも果物や地元の牧場で育った無角和牛の肉製品、地元の職人がつくる竹細工、手芸品など魅力的な商品が様々あるが、ひときわ存在感を放つのは、入口脇にドドンと無造作に積まれた30kgの米袋の山だ。

「5kgとか10kgの袋も置いてるんですけど、最近30kg袋で買う人が増えてるんです」

電話で市河さんがそう話していたの思い出した。さらに陳列台には、おいしそうなお飯の数々。炊き込みご飯に山菜おこわ、お寿司もある。おつ、たこめしは本日限定だ。餅の種類も丸餅にあん餅、おみやげによさそうな真空パックまで。焼いたかき餅に揚げたかき餅、おかき、米粉クッキーなどおやつ類も大充実の品揃えだ。

米価下落と交付金半減で 3800万円の減収

福の里がある旧福賀村の福田地区は四方を山に囲まれた盆地で、地元では昔からおいしい米がとれる地域として知られる。農家1戸あたりの平均面積は1haと中山間地にしては大きく、法人ができる前は各家が大型機械を揃えて隣が新型を買えばうちも……と競い合いながら「おいしいお米」という地域の誇りを守ってきた。

当然農地への思い入れも強く、法人設立の時にはいろいろと反対意見も出たが「やれるまでは自分でやればいい。でも農地は誰かが守らないかん」ということで法人化に踏み切った。2003年のことだ。

その後、機械の更新や高齢化を理由に農地の集積は年々進み、5集落30haからはじまった福の里は、いまや7集落111・4haの農地を任される存在になった。

設立時から組合長を務める市河さんは、「もらえるものはもらって、出すものは出さん」というポリシーのもと、中山間地域等直接支払や農地・水、最近では農地中間管理機構なども積極的に活用して、地域にカネを落とすことに力を注いできた。法人の取り組みは何度も様々な賞を受賞。「うちの法人がダメになるようなら、日本中の法人はダメになる」と市河さんがいうほどのモデル経営だ。だが、そんな敏腕組合長にとっても、14年産米の米価下落の衝撃はデカかった。なにせ主食用米の作付けはもち米2ha、コシヒカリは84haもあるのだ。

「だいたい3800万円ですかね」
米価下落と米の直接支払い半減で減る収入だ。農協の概算金は前年より3240円安い1俵9000円。「こんな米価が続けばもうおとーさん（倒産）ですよ」と、冗談めかしながらも事態はやはり深刻だ。

5kg2000円、価格では勝負しない

直売所と加工所は「地元のおいしいもち米でお餅をつくって販売したい」という女性部の熱い要望で、2007年に県の事業を活用して建設した。週3日ほどの営業だが、地域のお年寄りや女性たちにとっては、お小遣いを稼ぎながらおしゃべりも楽しめる、この地域で暮らす生きがいそのものだ。

13年の売り上げは約2530万円。そのうちお米は自慢のコシヒカリともち米を合わせて約700万円、量にすると700袋（1袋は30kg）にもなる。販売価格はもち米が5kg2200円、コシヒカリの白米は5kg2000円、玄米30kgなら9000円と決して安いわけではないが、売り上げは年々伸び続けて



上・30kgの米袋の山。常連さんは30kg袋を購入することが多く、取材に行った日は一番多い人で30kgを2袋購入していった

下・福の里女性部の米加工品の数々。40俵ほどの米を消費し、売り上げは年間1000万円以上だ。加工品を食べておいしかったからと、お米を買っていくお客さんも。一番人気は「揚げかき餅」（250円）

割烹着の女性とオレンジのユニフォームが福の里のメンバー。ピンクのユニフォームは他地区のグループ。前列左端で米袋を持っているのが市河憲良組合長